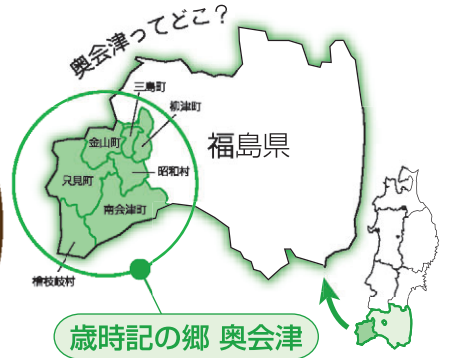


# 奥会津だより



今も暮らしに生きる道具を6回シリーズで紹介します。—No.3 イモ洗い棒—

## イモ洗い棒

中秋の名月は「芋名月」ともいわれ、収穫した里芋を供えるところも多い。里芋は古くから私たちの暮らしの傍らにあつて、命を繋ぐ大切な食物だった。ぬめりのある里芋の皮を取るときに大活躍するのが「イモ洗い棒」である。里芋を桶に入れて水を注ぎ、手の平状になった棒の先を桶に入れて左右に動かすと、驚くほどきれいに皮がむける。掘ったばかりのジャガイモもこのイモ洗い棒で洗うという人もある。松の枝ぶりが決め手の道具だけに、その人に合った素材を見つけるのに苦労したという。

さつまいもつちのおうちがよかつたなあ

はがちゆきさん(館岩小)

第 **38** 号

— 2006年秋 —

# 樹のある風景

樹々がまどう鮮やかな彩りには、降雪を予感して一瞬に燃え立ついのちの輝きが見える。奥会津の森林は、ブナやミズナラを中心にいるような植物が共存する落葉広葉樹林帯に属している。夏に繁茂した木々は水分の蒸散を防ぐためにやがて落葉するが、その直前の絢爛ともいえる装いは、長い冬の眠りに入る前の深呼吸のようだ。



写真/山浦芳明



日当たりの良い場所を好むカラマツ。晩秋のカラマツ林は意外なほど明るく、風が吹くと音を立てて松葉が降ってくる。カラマツは成長が早いので、森林が荒れたときにいち早く生えてくる樹木の一つといわれる。(南会津町館岩・10月)

※紅葉のピークは年によって異なるため、時期を特定するのは困難です。

ブナの幹を飾るツタ。外界から森を守ろうとするかのように樹々からみつき、一足先に紅葉する。陽を浴びる場所のツタは紅く色づき、日陰では黄色や橙に染まって深い色合いを作る。(昭和村・10月)



黄葉するブナ。金色に透けるブナの周囲には、ミズナラ・トチノキ・ホオノキなどが混生していることが多く、山菜やキノコの宝庫でもある。(檜枝岐村・10月)



## 奥会津つれづれ

奥会津では、実りの秋を迎え稲穂が黄金色に輝きを見せている。早いところでは、稲刈りが始まっており、冬に向けて季節の移り変わりが感じられる。

最近、田んぼでイナゴが飛び跳ねるのが目に付くようになってきた。農薬の影響が少ない水田が増え、昔のようにその数が増えてきたこともあるだろうが、自分の目線の高さが変わったのも理由の一つかもしれない。

子供が生まれてから、ふと気付くと子供の目線で見ている。今の時期になると、子供はイナゴを捕ってきて、得意そうに見せにくる。おもしろいもので、褒めるともっと大きなイナゴを捕ってくるのだ。そんなやり取りをしていると、田の近くを一人で歩いていても、無性にイナゴが飛びぬが気になってくる。目線を変えれば、目の前に広がる世界が変わり、見落としがちな事にも気づくようになる。

本誌では、地域外の方に奥会津の魅力を発信するために、奥会津の何気ない自然・暮らしなどを紹介している。地元の人にとっては、どこでも見られるありきたりの風景なのかも知れないが、川が流れ、山が色を変えていく自然の美しさが奥会津の魅力だということとを、住民の人にも改めて感じてもらいたいという願いもある。住民が自分の地域の素晴らしさを知ってこそ、魅力ある地域になるのではないだろうか。

いつもと同じ景色も、いつもと違う目線で見れば、一味違う景色が広がってくるはずだ。(康)

# 歌舞伎の義太夫七十年

—山入歌舞伎の重鎮 岩淵 太門さん（大正四年生まれ九十二歳）

金山町の山入地区は、山間の静かな集落である。

この地で戦前から行われてきた村歌舞伎は、戦時中とその後途絶えた数年間をのぞいて連続と伝えられてきた。村人が演ずる村歌舞伎は、今も山峡の村に年に一度のあだ花を絢爛と咲かせている。

村の青年で始まった山入歌舞伎だが義太夫を語る人がなく、岩淵さんは二十代の頃に独学でこれを学び、以来現在まで義太夫節で芝居の伴奏を担ってきた。地元の人々の耳に馴染んだ岩淵さんの義太夫節は、山入歌舞伎を象徴する独特の響きである。

農閑期の九月五日、いつもは静かな集落が歌舞伎に沸いた。打ち上げでは来年の出し物も決まった。来年雪が消えればまた稽古が始まる。



平成18年9月5日に上演された「奥州安達ヶ原 熊谷陣屋の段」

（聞き書き）

講演が近くなると週に二回稽古します。近頃はようまは疲れるからだめ。

遠い親戚が義太夫引き継いでくれたんで、ようまはその人に練習に出てもらうことにしました。義太夫がいねえと練習できねえから。義太夫をやるうと練習を始めてくれて、よかつたなと思つてます。

義太夫は山の中で練習したんです。周りに聞こえるようなところではやつたことがない（笑）。

今年的一幕は「奥州安達ヶ原 熊谷陣屋の段」。

これが台本です。やっぱり手書きの台本が一番です。義太夫の部分が大きな字になつていて使いやすい。

この本は二十代の頃から大切にしてきた本で、百の幕物が書かれています。台本はこれを手書きで写して作つてもらっていました。

終わるとさすがに疲れますなあ。でも、みんなこれが楽しみだから。歌舞伎が好きだから集まって練習もしてこられた年一回だけでなく、せつかくだからもつとやりたいが、衣装代が高くてなあ。化粧する人、着付けする人も一緒に頼むわけだから金もかかる。みんなが上げてくれる「花」のおかげで毎年何とかやれるんです。

来年の出し物は「袖萩祭の段」。五十代の若いもんから八十代まで、それぞれ当たり役も持つてるが、配役はまだこれからです。

終わつたばかりだが、来年も楽しみだ。

（談 岩淵 太門さん）



左が岩淵太門さん

## 只見線物語③

奥会津の暮らしを見つめてきた只見線。列車が紡ぐ四季の風景。

「紅葉に包まれた小さな無人駅。川べりのホームに着く只見行きの列車。この駅は、幾度の秋と何本の列車たちを、見送ってきたのでしょうか。これからもずっと、こんな秋がこの場所にめぐりつづけますように……。」

絵・文 松本 忠

1973年生まれ イラストレーター  
東北地方の路線を中心に、全国各地の抒情性溢れる鉄道沿線風景を描いている  
共著：『のんびり行く只見線の旅』（歴史春秋社）



「ふるさとの秋は変わらず」只見線 早戸（三島町）

**三島**  
会津の編み組 工芸品展

会津在住の工人たちが手作りしたヤマトウやヒロコ、マタタビなどの編み組工芸品を一堂に展示します。一部販売品もあり。

◆日時 平成18年10月21日(土) 22日(日)  
午前9時～午後5時

◆場所 三島町交流センター山びこ

◆参加料 入場無料

◆問合せ 三島町生活工芸館  
☎0241(48)5502  
kougekkan@townrinsima.fukushima.jp

◆メール

三島町宮下町内の工人たちを中心に、自作の工芸品、写真、絵画、革細工、盆栽などを、自宅を開放したギャラリーにて展示・販売し

**三島**  
てわっさの里秋まつり

◆問合せ 只見町役場産業振興課  
☎0241(82)5240

◆参加料 無料

◆日時 平成18年10月22日(日) 午前8時～小雨決行

◆場所 南会津郡只見町蒲里 集会所

◆会場 只見町役場産業振興課

**只見**  
新登山道蒲生岳トレッキング

蒲生岳に新たに作った登山道を楽しんで登ります。下山後は雪の里でのこの汁のサービスタバも販売予定です。

◆日時 平成18年10月22日(日) 午前8時～小雨決行

◆場所 南会津郡只見町蒲里 集会所

◆参加料 無料

◆問合せ 只見町役場産業振興課  
☎0241(82)5240

ます。農産物、会津地鶏などを使った露店も出店。

◆日時 平成18年10月22日(日) 午前9時～午後3時

◆場所 三島町宮下町内

◆問合せ 三島町役場産業建設課産業係  
☎0241(48)5533

◆メール sangyou@townrinsima.fukushima.jp

**南会津**  
前沢曲家まつり

◆日時 平成18年10月22日(日) 午前10時～午後5時

◆場所 南会津町前沢集落

◆参加料 無料

◆問合せ 南会津町観光協会  
☎0241(48)5500

◆メール nishima@townrinsima.fukushima.jp

◆問合せ 南会津町観光協会  
☎0241(78)2546

◆メール tatekankou@tatewa.org

**三島**  
奥会津登山ツアー

うつくしま百名山にも選ばれている志津倉山「博士山」に登る2日間。紅葉に彩られた山を満喫したあとは、地元山岳会との交流会、温泉入浴でお楽しみ下さい。

◆日時 平成18年10月28日(土)～29日(日)

◆場所 三島町志津倉山 柳津町「博士山」

◆参加料 1泊2日 大人12,500円 子供(小学生以下)10,000円 ※日帰りコース(1,500円)も受け付けています。

◆定員 各コース30名

◆問合せ 三島町観光協会  
☎0241(48)5500

◆メール nishima@townrinsima.fukushima.jp

**昭和**  
昭和村秋味まつり

秋の味覚である新そば、きのこの料理など各種御馳走(食べ放題もあり!)のほか、旬の味覚が当たる抽選などのイベントも用意してお待ちしております。

◆日時 平成18年11月5日(日) 正午～午後2時

◆場所 昭和村しらかば会館

◆参加料 大人(中学生以上)3,000円 子供(小学生)2,000円

◆定員 予約制120名

◆問合せ 昭和村秋味まつり実行委員会  
☎0241(57)3100 (昭和村商工会内)

**只見**  
第15回只見新そばまつり

新そばの食べ放題や地酒をはじめ飲み物も飲み放題です。特産品やそば打ち体験もできる抽選会もお楽しみに。

◆日時 平成18年11月11日(土) 午前10時30分～12時 午後1時30分～3時

◆場所 センター 只見総合開発センター

◆参加料 中学生以上2,500円 小学生1,500円

◆定員 午前午後とも100名

◆問合せ 只見新そばまつり実行委員会  
☎0241(82)5230

**地元記者の目**

カヌーに乗って



奥会津だより 地元記者 金山町 滝沢 薫さん

私が所属している『奥会津カヌークラブ』は、結成して6年、金山町にある『沼沢湖』を中心にカナディアン・カヌーを楽しんでいます。クラブ員は約25人。県外のメンバーも多く、千葉・埼玉・東京・大阪など10代～60代までの多彩な顔触れです。湖へ車で20分の場所に住んでいる私よりも、熱心に通って来るほど『沼沢湖の自然が大好きだ』と言っています。

クラブの活動は4月の『湖岸ゴミ拾い』に始まり、週末になると皆でカヌーを漕ぎ回りますが、一般の人を対象とした企画もあり、インスタクターとしてお手伝いしています。また、技術向上のためのカヌー講習会や、観光客のカヌーツアー



リングを行ったり、8月の『湖と妖精のフェスティバル』には毎年カヌー無料体験を開催しています。

湖面にカヌーを滑らせる度、その解放感に包まれます。風のない時には、空や辺りの山々が湖面に映り込み、巨大な鏡の上にいるようです。年に一度、只見川を下る機会があり、深い緑色の悠々とした流れに乗って渓谷を進むと、冒険小説の主人公になったようワクワクします。

カヌーでの交流を通して、たくさんの方にも出来ました。

昨年、クラブが縁で結婚した際には、湖の上で皆さんに『カヌー結婚式』を挙げていただき大変感動しました。

『沼沢湖』のような奥会津の素晴らしい自然や、温かい人と人とのふれあいが、これからも続いていくように大切にしていきたいです。

奥会津だより地元記者をHPでも掲載しています。今回掲載した記事の他に、柳津町の松木さん、三島町の小松さんの記事をHPで掲載しています。是非ご覧ください。

歳時記の郷・奥会津ホームページ <http://www.okuaizu-style.com/tdrsk/>

**南会津**  
第5回南郷トマトまつり

トマト早食い競争、抽選会など楽しいイベント盛りだくさん。

◆日時 平成18年10月29日(日) 午前9時～午後3時

◆場所 南会津町宮床 南郷トマト選果場

◆参加料 無料

◆問合せ JA会津みなみ南郷支店  
☎0241(72)2230

**南会津**  
第5回南郷新そばまつり

宿泊希望者はプラス3,000円で民宿に泊まる事が出来ます。

◆日時 平成18年10月28日(土) 昼の部正午～午後1時30分 夜の部午後5時30分～午後7時

◆場所 南会津町界 南郷スキー場 センターハウス

◆参加料 大人2,500円 小人1,500円

◆定員 各部とも先着100名

◆問合せ 南郷観光協会  
☎0241(72)2112

**方言クイズ** クイズに答えてプレゼントを貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう?  
「ようま」

ヒント：豊富な山村の暮らしを参照。

正解者の中から抽選で1名様に、只見町産の「きのこ」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979 奥会津書房 宛

●応募締切：10月末日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。  
※クイズの答えは次号39号で発表いたします。

◎37号「とみぎ」の答え：とうもろこし たくさんのご応募ありがとうございました!